

第2回 清須学推進会議 [平成28年8月26日(金)] の主な意見

1 清須学講座・テキストについて

- 地域資源の絞り込みが重要であり、しっかりやってほしい。[横井委員]
- 教職員や市職員が清須を好きになるような研修や学びの機会が重要である。[加藤(暉)委員]
- 6回だけ講座を開催して、ペーパーテストを開催するというのは非常に残念。もう少し講座の回数を増やしてほしい。[田中委員]
- 「美」と「都市」というテーマを絞って、分かりやすく、物語性を持たせる意味では、分かりやすくていい試み。[原田委員]
- 何々学といった場合、そこで固定するものではなくて、それを調べたり新たな発見があったりして発展していくということがあってしかるべき。春日井市では、亡くなられた森浩一先生を毎回座長に迎えて、毎年テーマを決めてシンポジウムをされている。将来的に、市内の歴史や自然や現代のこともいいので、何かテーマ性を持たせたシンポジウムや勉強会を加えていければ、またそれが、新たな発見や示唆へと発展していくこともあるのではないかな。[原田委員]
- 歴史的な地域資源として、3つほど大きく出されているが、地元の人たちの認識が不十分。何が大事なのかということが、ちょっと取り残されている部分がある。また、それら地域資源についての研究がまだ十分に尽くされていない部分もある。この清須学が、研究の場としても活かされることを期待する。[加藤(富)委員]
- 学校の先生、会社のトップに立たれる方、あるいは市長をはじめ指導的な立場にある方々が、歴史認識をきちんとしていただく機会となるよう希望する。[加藤(富)委員]
- テキストの編集の順序については、時代順に並べていくべき。また、明治22年から平成17年までの清洲町時代に生まれた固有名詞は別として、なるべく清須の「す」は「須」で統一してはどうか。[加藤(富)委員]
- フィールドワークについては、特に教職員の方に参加してもらうことが重要。子供たちにとっても先生から聞く話は影響が大きいので、先生に知ってもらうことは重要。[箕浦会長]

2 「清須マイスター」について

- マイスター認定にあたって、特別な配慮があれば、ガイドボランティアのメンバーには養成講座の受講やその後のガイド経験があるので、対応できると思う。[横井委員]
- 誇りを持ってこの街で生きられるという人を増やし、そのための指導者を養成するということが、単に検定を行うことで果たして獲得されるのかについて、否定的な印象を持っている。案内板の設置など、まちづくりにお金を使ってもらうことが重要ではないか。[加藤(富)委員]
- 講座認定試験とマイスター認定試験との関係性は非常にいい。ただし、決して知識だけではなく、まちづくりへの貢献度も非常に大切。知性、教養、それから人としての資質がマイスターとしては非常に重要である。それは、地域資源だけでなく、マイスター自身も清須を好きになってもらう魅力となるからである。したがって、マイスターには、知識だけでなく品格が必要。[石田副会長]
- 試験を行うにあたり、可否の発表の際に解説等によるフォローが必要。[石田副会長]

3 その他

- 長期的な取り組みとして、まちづくりとの連携等、すぐには実現が難しそうな事柄にも取り組むべきではないか。遠くから来た観光客の方に「清須市は地域の歴史について力を入れていない街だなと思いました」と言われたことがある。清洲城、朝日遺跡、キリンビールを結ぶような方策も必要。[加藤(暉)委員]
- シンポジウム開催にあたって、会場ががらがらでは小和田先生に対して失礼である。せめて400人くらいは客席が埋まっていなくていい。市民は広報にチラシが入っていたが、市外の人に向けて周知するため、中日新聞との連携が必要。[田中委員]
- どの市でも大きい駅、最寄りの駅にはパンフレットが置いてある。新清洲駅とJR清洲駅の窓口にそういう資料を置かせてもらうことはできないか。[田中委員]
- 春日地区に10カ所くらい設置されている「清須名所案内板」を全市的に整備できないか。また、清洲支所に桑原幹根さんが昭和46年に揮毫した「人間五十年」の碑があるが、本庁舎への統合にあたって、この碑を信長の銅像がある清洲公園へ移せないか。[田中委員]
- 何故この清須学あるいは清須マイスターというのをやるかということが大切だが、要はシビックプライド、「清須が好きだよ」という人を増やすということである。そのために、「SNSや地域での交友範囲でのクチコミ等による情報拡散」とあるが、これは非常に重要である。[山本委員]
- マスコミ向けの情報発信も重要。マスコミに取り上げてもらうには、読者目線で面白い点、あるいは「おっ」と思う点ということが必要。「初」、「何万人突破」といった切り口を意識するとよい。ただ記事に載るのがすばらしいということではなくて、その記事を見た清須市民一人ひとりのシビックプライドがさらに醸成されることが重要である。[山本委員]
- キリンビール名古屋工場、清洲城、貝殻山貝塚資料館はそれぞれ集客力のある施設なので、この3点を結ぶ巡回バスがあれば、滞在時間を長くすることができる。滞在時間が長くなれば、愛着もわく上に、経済効果も期待できる。[山本委員]
- 貝殻山貝塚資料館がリニューアルすることについて、旅行会社の方が強い興味を示してくれるので、さらなるPRが必要。[石田副会長]
- 貝殻山貝塚資料館については、ただ建物を建てるだけではなく、建物の周りに、当時生活していた生活様式を再現してほしい。高山の山車記念館の場合、できた当時は200万人いた来場者が、今は大体70~80万人で、少ない年は50万人くらいだと聞くので、リピーターの確保も意識してほしい。[箕浦会長]
- 清須は信長だけではない。加藤清正、福島正則と、いろいろな武将が清須の街のどこかに住んでいた。できれば、大体ここら辺に住んでいたと看板を掲示できるとPRがしやすい。[箕浦会長]
- 清須市内を長い時間周遊してもらえると、喫茶店やお食事処もいる。現在のように1カ所に行って帰るというふうでは、滞在時間が大体1時間か2時間しかないのもっと面的な連携をすれば半日以上遊べることになり、喫茶店の需要も生じるので、そういうことも検討を進めることが必要。[箕浦会長]